

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200317		
法人名	有限会社 ペイントプランニング		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	宮城県登米市豊里町内町浦36		
自己評価作成日	平成30年2月3日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年3月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すべての入所者さんが、出来るだけ自由な行動が出来て自由な発言が出来て、畑作りなど今までしてきた生活が継続できるように支援していきたい
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>商社・卸・問屋を運営する建設企業「ペイント・プランニング」が昨年の2月に開所し、旧北上川沿いの、のどかな田園風景が広がる一画にある平屋建ての1ユニットの事業所である。4つの運営方針を玄関に掲げ、職員が笑顔で利用者に接し、利用者と一緒に畑づくりを楽しんだり、つるし飾りや手作りのおやつと一緒に作るなど利用者の持てる能力を存分に引き出し、日々のケアに努めている。医療連携も図られており、訪問看護ステーションから週1回、看護師が訪問し健康管理を行っており、利用者や家族の安心に繋がっている。開所から一年ということもあり、模索している状態が垣間見られるが、管理者と職員が建設的な意見を出し合い施設運営に反映させて、明るく話しやすい職場づくりが構築されている。今後は災害時の近隣住民の協力体制や経験の浅い職員の研修会の充実を期待したい。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH田園 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員に理念方針を理解するように常に話はしてるが、全ての項目で実践できているかは疑問、それぞれの入所者さんの状態に対応することで精一杯になっているのが現実である。	事業所の運営規程に規定されている運営方針を玄関に掲げ、利用者が今までしてきた事（畑仕事・縫物・買い物など）を継続してできるように支援するなど、一人ひとりに合わせた支援に努めている。	事業所運営の指針となる「理念」を、全職員が地域密着型を意識した、分りやすい理念の作成に、期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時は、地域の老人クラブのカラオケに参加したりしていたが、入所さんがあまりカラオケが好きではないため、数回参加しただけになった。その他認知症カフェに参加したりしている。	運営推進委員の老人クラブ会長の口添えでカラオケに参加したり、地域の行事の「よさこい祭り」や「認知症カフェ」に参加するなど、地域交流を図っているが、今後は地域へ事業所の行事案内など、もっと繋がりが持てるよう検討している。	開所して1年ということもあり、近隣住民との関係がまだ構築されておらず、地域交流を意識した事業所としての行事を企画することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状ではそのような働きかけは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回のペースで行っており、施設の状況や悩みなどを相談し、助言を頂いており、問題点は次回に持ち越し変更や新しい対処などを報告している。	市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、老人クラブ会長、職員で2ヶ月に1回開催している。事業所の運営状況、事故、行事報告を行い、相談・困り事などには助言をもらうなど意見交換が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設として対応に苦慮した案件につき、地域ケア会議を開き、各部門の参加を貰い問題の解決に向け話し合いを持ち協力を得ている。	市職員が運営推進会議に参加し、外部侵入者に対する防犯対策や認知症が重度化した利用者への対応、困難事例などについて助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、入所直後は帰宅願望が多くの方にあり、無断外出もあった。危険回避の為玄関・非常口の施設をおこなったこともあるが、現在玄関の施設は行っていない。又転倒防止の為柵を使用することもあるが、家族の承諾を得ている。	マニュアルを作成し、ケア会議時に、その都度、事例を確認し身体拘束をしないケアの実践に繋げている。帰宅願望者の強い人はドライブなどで気分転換し、散歩などの外出希望者には職員が同行している。玄関の施設は、19:00～翌朝7:00までである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設でも虐待は行っておらず、今後も決して行うことのないように職員一同周知徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弱い立場の人に対し、上から目線の発言行動などのないように、日々自分の行動を顧みるように話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の説明をし署名をしてもらっているが、疑問質問などは日頃その都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があれば管理者または、市・県などに訴えることが出来る旨、契約時に説明しておりますが、苦情は管理者が入所者さんのご家族より伺いお答えし、その後の職員に周知徹底しその後の支援に反映させている。	月1回、請求書と一緒に「手紙」を出し、近況報告をしている。面会時に家族から意見要望を聞き、運営に反映している。苦情に対しても、真摯に受け止め、管理者と職員が共有し、その後の支援や事業運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングにて、話合いで出てきたことについては、とりあえず行ってみる。その結果を見て次に繋げる努力をしている。	月1回の職員ミーティングや朝・夕の申し送り時、日常会話の中で出された職員の意見を、事業運営や支援に反映している。職員への資格取得の支援があり、意欲的な職員のためにスキルアップへ繋がるようにしているが、研修の機会が少ない。	全職員がケアの質の向上ができるよう、内部研修の充実や外部研修への参加支援を図る取り組みを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやる気を持って仕事ができるように、資格取得への援助や全員が均等に休める・用事のある時は休みが取れるシフト作成などの配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加し、入所者さんのケアについて、訪看・Drの意見や介助方法助言などを自分のものとしたり、自分で調べるなどし職員が自分のスキルアップに繋げるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護関係事業者との交流を行い、情報交換や一緒に事業を開催し、入所者さんも参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は慣れない場所知らない人たちの中での生活の為、不安で帰宅願望を持つ人が多い、なるべく不安にならないように声掛けをし訴えを聞き安心してもらえるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は自宅での生活が難しくなり、自分達では見ることが出来ない。出来るなら何時までも現在の状況を継続し、安心して生活してほしいと思っている。その為早く施設の生活に馴染んで自分の居場所としていただけるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ事業所としては現在他のサービスの利用については、医療連携で訪問看護を利用し体調の管理をしてもらっている。又状態により特別指示書により訪問看護往診なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするとの考えから、一緒に食事を作る、掃除をする、畑を耕すなど、一緒に出来ることをなるべく多く考え、声掛けし参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対してはなるべく多く面会に来ていただけるように話し、本人の状態を報告し、状態に変化があれば報告し承諾を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の交流を大切にもらい、一緒に写真などを撮ったりして記憶に残らない人にとっても記録に残るようにしている。	親戚や友人が事業所を訪問する時には、利用者と一緒に写真を撮り部屋に飾るなど、記憶に留められるよう配慮し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来るレクや作業を考えたり、誰かの車イスを押してあげたり、洗濯物を畳んであげたり、お茶を入れてあげたり、お互いに支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方については情報が入らないので、交流は出来ていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの希望を把握してどのようなことが本人が求めているかを考え、対応しているが、全ての訴えを叶えることが難しい。	生活歴や職歴、趣味を把握し、利用者の希望にそうように支援している。縫物、編み物などの縫製が得意な利用者が多く、つるし飾りやのれんの製作に取り組んだり、職員と畑を作るなど、生きがいを持って生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活が現在の状況を引き起こしている原因となり問題となっていることも多いが、習慣を変えることが難しく、支援の方向が決まらないこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の得意な事を伸ばすために、出来ることを継続できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に沿って支援していく中で、新しい問題がおきたときに、そのことについて話し合い、家族に報告し、支援の変更を行っている。	介護計画は6ヶ月に1回モニタリングを行い見直し、家族に説明をし同意を得て更新している。状態に変化が生じた利用者には、その都度、家族に報告し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態は記録しており、職員間で引き継ぎ報告をし職員間で周知している。又申し送りの記入も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在入所されている方の状況が悪くなって施設では見れなくなってきているが家族が遠方に居るため、見れず施設で訪看往診をしてもらいながらお世話をしている。病院受診はほぼ施設で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、概ね施設での支援になっており、主治医との関係も密に取っており、なんでも言える関係性を作っている。	ほとんどの利用者は、協力医療機関がかかりつけ医で、月1回の受診には職員が同行している。訪問診療を受けている利用者もあり、利用者本位の医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で訪問看護を利用しているが、看護師さんとの関係も出来ており、緊急にも対応してもらい、医師との連携もし助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院の訪問を頻回にし状態の確認。看護師さんにその都度状況を聞き取りしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、緊急時などの対応については、契約時に話しをしているが、終末期については、家族親族間で話し合いを持ってもらうように話している。	重度化や終末期に向けた対応は、入居時に家族に説明し確認している。事業所での看取りはしていないので、緊急時は訪問看護ステーションと連携し、協力医療機関に搬送するなど対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故などの場合は迅速な対応や緊急搬送などの対応をするようにミーティングなどで話し合いを持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の避難については火災に対する避難訓練を行っている。水害や地震については状態を確認して避難するように話しているが、現在避難訓練を実施していない。	夜間想定を含めて、年2回消防署立会いのも避難訓練を行っている。事業所の近くには社長と職員が居住しており、有事の時の安心に繋がっている。火災報知器、スプリンクラー、AEDなどを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を尊重するように話しているが、近い存在として家族のような対応になったりすることがある。	プライバシー保護のマニュアルを作成し、利用者の尊厳を尊重した支援を心がけている。呼び名は、下の名前に「さん」を付けて呼んでいる。排泄介助などもさりげなく居室やトイレに誘導し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望は聞くようにしているが、外出や帰宅については全ての希望を受け入れることはできないのが現状。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の希望に沿った支援は全て叶えることは出来ておらず、施設の都合で動くことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入所者さんには白髪染めをしたり、入所者さん全員の髪の毛はボランティアの美容師さんにカットをお願いし、いつもきれいで居られるようにしている。男性も髭を毎日剃り清潔にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好みに配慮し、皆で一緒に食事が出来るようにメニューを変えたり、一緒に作ったり、片付けたりを行っている。又必ず月1回はお楽しみ食事を入れ、寿司や外食も取り入れている。	職員が交替で献立を作成し、買い物や食事の準備・後片付けを利用者と一緒に行っている。行事食も多く取り入れ、お楽しみ食事会などにはテーブルの飾りつけや盛り付けを工夫し、目でも楽しめるように配慮している。出前をとったり、外食に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態・摂取できる量・嫌いなものを考え、盛り付けを行い、食事形態も食べやすいように刻み・おかゆなど体調に合わせて調理している。水分は声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人には声掛けを行い、自分で出来ない人は介助にてうがいなどをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は各自違うので声掛けや取り換えの準備を行い、自分で出来るように支援している。中には尿意が分からない人もおり、オムツやリハパンの使用を減らすまではしていない。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声掛けをするなど、自立に向けた支援を行っている。便秘対策には、医師が処方する薬を服用したり水分補給、野菜を多めに摂取するなど工夫し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量や排便の状態を毎日確認しながらメニューに繊維質の野菜などを使用したり、整腸剤の服用を主治医と話し合い処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については個人の希望に添えないこともあり、施設の都合にて時間を決めているのが現状である。その時の季節により、ゆず・リンゴ・バラなどを入れ、入浴を楽しんで頂いている。	毎日入浴する利用者もいるが、1日おきが基本である。入浴拒否の利用者には、声掛けを工夫したり、ゆずやリンゴ、バラの花を浮かせるなど楽しみながら入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠については入居者様にお任せし、それぞれに自由に休んでもらっている。中には不眠の訴えをする入所者さんもいるが、決して睡眠が取れていないわけではなく、思い込みで話されている事が多い。昼食後は入居者様全員、居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作り、職員が入居者様のお薬の把握が出来るようにしている。入居者様のお薬の変更には口頭だけではなく、申し送りノートでも記載し報告漏れがないようにしている。入居者様の状態を観察し、主治医への助言を頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに得意な分野があり、なるべく自分で出来ることはやって頂いている。自分で作ったものや、仕上げたものを評価してもらうと喜ばれていたり、自分から率先して仕事をしてくれたりする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、条件が許す限り、希望に沿って付き添いはしていきたいと思うが、寒い季節に散歩や、自宅に帰りたいなどの希望もあり、全ての要望に対応しきれてはいない。	天気と利用者の体調を考慮し、四季折々の景色を楽しむ外出をしている。クリスマスリースづくりの材料を採りに出かけたり、免許証の返還に行ったりと個別の支援もしている。日常的には、買い物や地域の祭り、認知症カフェなどへの外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方もいるが、その中には自分では管理していない方もいる。買い物の希望に沿って一緒に出掛けたり、施設の買い物に付き添いを頼んだりしている。持っていない人については立て替えをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自宅や家族に電話をしたい時は施設の電話から連絡したり、手紙を投函してあげたりすることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースについては、温度管理や照明には気を付けており、快適に過ごしてもらえるように配慮している。季節の飾りなどを皆で作成し、飾ったりしている。	温・湿度は職員が管理し、適温に保たれている。ホールには、お雛様や利用者と一緒に作成した壁掛けや、つるし飾りなど、季節感が感じられ、心が和む共用空間になっている。腰掛けてゆったりと話ができるよう、収納付きの簡易ベンチを至る所に配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の居場所については、それぞれが座る場所が一日の中でほぼ決まっており、それはお互いに周知している様で、譲ったり声掛けしたりすることがあり、自由に任せている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については自分の自由に配置をしてもらい、慣れ親しんだものや、好きなものを持ち込んでもらっている。	居室は、ベッド、布団、クローゼットが備え付けられ、それ以外は、利用者の慣れ親しんだものを持参している。壁には自作の作品や写真が飾られ、その人らしい居室となるように配慮し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールは広めになっており、歩行に支障のないように配置している。廊下は広くとり、2か所に休憩用の椅子をおいてある。		